

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム よいしょ春採 (1F)	評価実施年月日	平成20年1月31日～2月16日
評価実施構成員氏名	ホーム長 阿部、山口、皆木、前川、鹿野、菊地、武利		
記録者氏名	阿部 世紀子	記録年月日	平成20年2月16日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者がもう一つの家として、満足した生活を送って頂けるように常に「笑顔でサポート」を実践し、笑顔の絶えない楽しい我が家である様に取り組んでいる。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	必要情報の共有化を徹底して、理念の具現化を図ることを重要取組事項の一つとしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の方にはホームページや「よいしょ便り」の発行等の広報を通して、ご家族には利用者の生活状況等を来訪時に報告したり、お手紙やお写真の送付を通して「楽しい我が家」が理念であることの浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	隣近所、町内会の方と行き会った時には挨拶の徹底を計り、町内会の一員であることを理解して戴ける様取り組んでおり、日常的なお付き合いが出来るように努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームの行事(クリスマス会等)には地域の方をご招待し、地域の行事(盆踊り等)や保育園の行事には参加させて頂き、併せて地元の方々との交流に努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	「高齢者文化作品展」等の作品作りを通して、利用者全員が一丸となり、コミュニケーションと親睦を図ると共に、地域行事にも積極的に参加している。		清掃の日・花いっぱい運動等の環境美化運動に参加して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の外部評価での「要改善」点について、職員は共有認識のもと積極的に改善に取り組んだ。同時に再度の自己評価を行い問題点の掘り起こしを行い、緊急を有する事項等は速やかに改善している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>利用者の1日の生活の様子、心身状況を理解していただいた上で、緊急時の災害等における町内会との連携やホームの取組みについての評価・提案を載している。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>自治体主催のセミナーや各種勉強会には可能な限り参加し、併せて市の担当者との連携に努めている。定期的な打合せはないが、特に経営者との間で積極的なやり取りが良好に継続している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度のセミナーには積極的に参加しており、今後事案が発生したときに混乱なく制度が活用出来るように考えている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法及び身体拘束等についての研修には積極的に参加している。利用者・スタッフ相互の言動・行動に注意を払い、常に防止に努めている。又日常作業の中に虐待に当たることがないか、日々個々人が振り返り・反省することにより防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を行う際には入居者や家族に十分な説明を行い、契約後においても質問に応じている。退去時においても契約書にあるように、納得される退去先に移れるよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションの中から意見・不満・苦情を読み取り、スタッフのカンファレンス(検討会)の中で精査・解決している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族の来訪時での報告は勿論、毎月請求書送付時に利用者の生活の様子を写したA4版の写真に担当スタッフの手紙を添付し、併せて領収書を添付した現金出納帳を同封している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しているが、ご家族に対しては積極的にホーム側より聞き取りをしている。訪問時には相談室において要望・意見を伺い運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	都度聞き取り、又は面談・会議を通して出された意見・提案は運営に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	シフト勤務は血の通った温かいものと認識しており、勤務の変更は状況により柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職時には新規採用者を事前に配置する等、利用者に対するサービスの低下を招かないように配慮している。又スタッフの定期的な移動は、マンネリ防止の為にも必要なことと考え実施しているが、同様の考えで業務に支障がないよう慎重に進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会等には積極的に参加し、他ホームの取組みを聞いたり、介護技術を身に付けスキルUPを図っている。それらは他の参考資料と同様、確実に他スタッフに回覧・伝達され職員を育てている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>GH連絡協議会を通して行われる親睦会・ホーム交換実習は積極的に参加し、交流を図っている。最近では釧路市東部南地域の3つのGHと打合せし、共同でのスキルUPを模索している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に管理者が職員と個別面談を行い、ストレス軽減に向けた話し合いが持たれている。現在職員の休憩室がなく、各自の車中で休憩をとっている状態なので、これについては経営者と打合せ中である。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>本人や他の職員から話を聞き職員個々の努力や実績、勤務状況を正しく把握し、向上心を持って楽しく働くことが出来るよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に何度か本人に会い、生活の様子とお話から、ご本人はこれからどうしたいのかを御家族からのお話も併せて構築し、同時にご本人との信頼関係をはかっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に何度か御家族に会い、困っていること、不安なこと、求めていること等を伺い、ご本人のケアに生かすと共に、ご家族との信頼関係をはかっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者が中心になって対応している。グループホームの利用に特化することなく、介護保険法の3施設又は他の地域密着型サービスの情報を提供したり、紹介するように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お茶碗・お箸等のご本人が使用していた馴染みのあるものをご家族に用意していただいたり、入居時には他入居者様を紹介したり、職員も一人ひとり挨拶し、又歓迎会を開く等して徐々に馴染んでいただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、お料理の際味見をお願いし助言をいただいている。カスピ海ヨーグルト・甘酒・塩辛等の作り方を教わったり、職員が使用する事務用品の片付けを手伝っていただき、しまった場所を聞いたりする等お互い支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	遠方のご家族にも係わらず、病院受診をされる場合が多々あるが、あえてこの接点が大切だと考えお願している。同様に御家族の利用者様への訪問も大切に考え、利用料のお預かりも振込みに限定することなく、お持ち頂いた際にも利用者様の情報を伝え、一緒に支えていく関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月に一度、入居者様のホームでの暮らしぶり、お話しした言葉などを書いたお便りを、笑顔のお写真と共に送付し、ご家族には常に安心感を持っていただいている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	住んでおられた処やその周辺を一緒に見に行ったり、ご友人・御近所の方が来られた時は積極的に会って頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりの性格・好み・手伝えることを把握し、職員が間に入ることで、自然と調理・買い物等を通じて協力・支えあうように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院されやむなく退去されたご利用者が、再度御家族の希望で入所になられたことがある等、退去時にも支援は欠かさずご家族とは良好な関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホームに就職されたと思っている方には職員と一緒に電卓を叩き、お部屋での時間を大切にしたいと思う方はそのように支援し、料理をキッチン内で作りたい方には積極的にやっていただく等、自己実現のためにも思いや意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、又その後もご本人、御家族、関係者の方からご利用者の生活歴を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	刻々と変化する一日の過ごし方・心身状態を把握する為、書式による生活記録(バイタル等)や口頭での申し送りにより、総合的に捉えようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員だけが「介護計画」を作成するのではなく、ご利用者の担当スタッフ初め管理者、他スタッフ、看護師が情報を持ち合い長期・短期の計画をチームで作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。又入院など心身状況・環境に大きな変化があった場合は、都度スタッフ会、ご家族との話し合いを持ち、適切な計画を作り直している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ノートと口頭による申し送りが引き継ぎ時にあり、情報の共有に努めているが、それとは別に24時間の「生活記録」があり、バイタル・摂食量・排せつ・睡眠・入浴等や利用者の言葉が書き込まれ、同様に共有する大切な情報であり、「生活支援計画」に生かされる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族が行けなくなった病院受診では、ホームの職員がホームの車を使いお連れしている。ご利用の方が不幸にも亡くなられた場合、同じフロアのご利用者は喪服に着替え、ホームの車を使い通夜に出掛けたり、楽しみとして近隣の温泉に泊まったり、職員・資源を柔軟に使って支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署との協力で避難訓練を行ったり、民生委員の方とホーム利用者の緊急避難について話を持っている。市のお祭りや町内の夏祭りに参加したり、作品展に出展している。他にも保育園の子供たちが訪ねてきたり、招かれふれあいを持つ等地域資源と協力しながら支援を進めている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近くに開設した障害者の施設の協力でカラオケをしたり、お風呂に入ったりしている。ボランティアの方に理美容に来ていただいたり、入浴のお手伝いをいただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の委員というだけでなく、最近では入居希望者の橋渡しになってくれることが多く、こちらからも介護保険の取り扱いで何う場合もある。又成年後見制度等の各種セミナーの御案内・他社会資源の紹介をいただくなどの連携がなされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	異変があった場合はホームの看護職員と相談の上、医療連携している医療機関で診断していただいているが、ご利用者が入所前から利用していたかかりつけ医がいる場合は、その医療機関を受診する。最近は歯科だけではなく、内科医の先生にも往診いただき、健康管理に努めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	脳神経外科は勿論、認知症に詳しい精神神経科の受診も多い。医師とは積極的な情報交換が行われ、それにより薬の種類・量が決められてゆく。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご利用者の日常の生活状況を良く知るホームの看護職員は、緊急時又は定期の受診において、地域の医療機関に適切な情報を提供し、利用者の健康を陰で支えている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご利用者入院後も訪問し、見知った顔を出すことによって安心していただくと同時に、病状の変化を伺い、状況により御家族と共に医師の意見を伺う。医療機関と連携して必要に応じて日常の情報を提供し、早期の回復、早期の退院を計っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療連携体制をとっているグループホームとして、入居時から「重度化した場合の同意書」を交わしている。未だターミナルケアの経験はないが、「ターミナルケアマニュアル」は作成し職員には回覧、周知徹底している。御本人・御家族の希望で看取りの対象者が出た場合には早急にスタッフ会を招集し、具体的な検討に入る。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	往診して下さる医師の体制は出来ている。訪問看護事業者との打合せも終了している。ターミナルケア実現の為に必要な、気付きを中心としたチームケアは日々構築されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境の大きな変化がある場合は、御家族に日常生活を伝える等して、出来る限り今まで通りのリズムで生活できるよう支援する。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者さんには常に尊敬の念を持って、言葉かけや対応をしており、生活記録においてもその様に取り扱っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>毎行行われている入浴・排せつ等も、説明の上、御本人の気持ちを確認して行われる。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>グループホームは利用者の家なので、入浴も夜に入りたい方にはその様に支援し、午前中お休みしたい方にはその様に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日々の服装は入居者さんの希望を聞いて支援している。理美容は現在御本人の望まれる店はないが、ボランティアの方に2ヶ月に1回来ていただいております、御本人の納得した髪型にして頂いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者さんの食したいものを事前にお聞きして、一緒に下ごしらえに入るようにしている。後片付けは利用者さんが中心になって行われている。又、日によって外食、出前、パン食にする等飽きの来ない工夫をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒等はかかりつけの医師と打合せする場合があるが、嗜好品は日常的に楽しめるように支援している。おやつとは別な嗜好品は個人の居室で召し上がっていただく等配慮するようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの方は現在いらっしゃらない。排泄つの間隔を把握し、声かけ・誘導を行っている。自分で出来る部分は安易に職員が手を出さず、見守りの中ですて頂いている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や回数・時間帯が決められてはいない。又支援スタッフが固定されてもいない。入浴は午前中から準備され、ご利用者が入浴希望を言いやすい自由な雰囲気を作るようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、利用者が床に付きたくなる各自のプロセスを支援している。食事後のリラックス・着替え・歯磨き・テレビの音量・ホールとお部屋の行き来等だが、ストレス・日中活動量・入浴・お腹の調子・排便等も影響する為それらの情報も共有され、支援される。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物・食事準備・後片付け等、興味があることは積極的に係わっていただいている。新聞を読んだり、漫談のCDを聴いたり大声で笑っていただいている。塗り絵・ちぎり絵・編み物等共同で作ったり、おやつ時間(3時)にはいつも皆で歌を歌っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御本人がお金を管理する能力、又はお金を一部所持したい方には管理していただき、スタッフと一緒に本・ハガキ・切手・おやつ・化粧品・お酒等を買に行き。管理が難しい場合はホームで管理し、受診料・肌着・リハビリパンツ等を購入し、後日預かり金の出納帳を御家族に送付するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出を容易にするために、車は福祉車両を用意している。計画を立て外出することもあれば、当日ふらっと海を見に行ったり、公園へ行ってアイスを食べてきたり、臨機応変に外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフと共に夏祭りの会場で屋台を回ったり、回転寿司で食事をしたり、ボーリング場に行ってみたり、温泉へ一泊旅行に出掛けたりしている。ホテル等で記念行事をしたり、別会場を借りてクリスマス会をする場合は御家族の方にも出席いただいている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご利用者が御家族又は御友人にホームから電話をしたり、電話を受けて話すことは自由で、それを支援している。手紙や年賀状もスタッフの協力により、作成・送付している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	1来訪されたお客様と、居室やリビング等でゆっくりと談笑して頂ける雰囲気が出ています。2夏のバーベキュー会・冬のクリスマス会では、御家族や地域の方達にも声を掛け、楽しいひと時を共感していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	以前、ご利用者の御家族から介護衣を使うよう提供していただいたことがあるが、丁寧にお断り申し上げた。身体拘束だけではなく、スピーチロック・ドラッグ拘束等、利用者を施設側の都合で支配・管理することは厳に戒めなければならないことを、理念と共に毎日確認している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・玄関・非常口は日中鍵は掛けず、利用者は自由に屋外を行き来できる。その際は安全確認を常にしながら、さりげなく見守りを行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員1名は必ずフロアーに居り、居室で休まれている方には時々声かけするようにして、職員全員が所在や安全を把握できるようにしている。夜間は各利用者を巡回し、安全確認を行っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>キッチン等に興味があり、徘徊がある場合は包丁を手の届かないところに保管する等している。又利用者にとって注意の必要なものは職員が把握し、場合によって保管させていただき、事故がないよう安全に気をつけている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>身体状況面から、誤嚥等による窒息を防ぐ為に刻み食として、少量ずつ召し上がっていただく等、職員全員が情報を共有し、統一した介護計画とケアを行い、結果事故の防止を図っている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急マニュアル・事故発生マニュアルは作成され、定期的な訓練も行われている。しかし、回数が少ないと思う。</p>		<p>具体的な訓練の数を増やし、急変時には落ち着いて対応できるようにしたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練は1年に2回行っており、運営推進会議等の席上でも、地域との災害時の連携について話し合われている。</p>		<p>夜間時を想定しての避難訓練を行いたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>抑制感のない暮らしを大切にすることはグループホームの特徴であり、必然的に見守り・気付きを最大限に発揮して、安全を確保することを御家族にも説明している。「生活支援計画」においてもその考えが基になり、特徴的な対応の仕方(徘徊される方に対して、それを止めるのではなく、その都度支援する等)に理解していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の体調等に变化があった場合、他の職員へも口頭・ノート・生活記録等で速やかに申し送りされると共に、看護職員・管理者と相談の上初期の対応が決定される。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は利用者一人ひとりの薬ファイルを作り、用法・用量を把握できるようにしている。誤薬がないようその都度確認して、飲み終えるまで見守るようにしている。薬が変わった場合はその効能をチェックし、その後の様子に変化がないか申し送りしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取量を把握したり、食物繊維等バランスの取れた食事を心がけるようにしている。テレビ体操をしたり、生活リハビリの考えで身体を動かして頂く様にしている。		利用者全員が身体を動かす機会を増やしていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の自主的な口腔ケアの他に、食後は毎回声かけて口腔ケアをしていただくようにしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの身体状況に合わせて、トロミ粉を使ったり、きざみ食にしたり、TPOや嗜好に合わせた水分摂取を心がけている。食べる量も、比べて分らない範囲で、一人ひとりに合った量にしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めがなされており、利用者・職員・来客の手洗い、うがいを周知徹底している。職員のインフルエンザ予防接種、健康診断も全員がなされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所のシンク内・まな板・布巾等は、毎日夜勤者が殺菌消毒している。食材は毎日新鮮なものを購入し、古いものが残らないように日付を確認しながら使っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の前は広く、通りまで見渡すことが出来る。夏場は近隣の子供たちが遊びに来て利用者とも交流している。</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>春採湖に面している環境の為、騒音・ネオン光等はない。玄関には四季を感じる置物が都度展示され、廊下・リビングは勿論、トイレの中にも絵画を飾り、御自分の家のような、くつろげる雰囲気を作っています。</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室以外では特に一人になれるスペースはありませんが、利用者がお一人でソファやテーブルに座られることはあり、その場の気持ちを押し量って対応しています。又利用者のお部屋に数人の利用者さんが集まって談笑されることもあります。</p>		<p>利用者全員が楽しめるスペース空間があったらよいと思う</p>
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際に御家族とよく話し合い、御本人が落ち着ける普段使い慣れた品(仏壇・御家族の写真・表彰状等)を持ち込んでいただいている。</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレは常に換気扇が回っていて、便座にも臭気が残らないように工夫されている。リビングには空気清浄機、加湿器、除湿機が設置され、季節又は日によって適切な空調管理がなされている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーとなっており、身障者トイレ、エレベーター、車イス対応洗面所等、車イスの利用者も出来るだけ自立した生活が送れるように考えられている。又ホーム内は至る所に手すりを設置し、杖歩行の方や自立の方も安心して生活していただくよう工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ、風呂等にはサインボードがあるが、更に分かりやすくする為に大きな字で表示し、混乱がないように支援している。又利用者の部屋の入り口には飾り棚のスペースがあり、それぞれのお名前や以前使用していた表札を設置して、御自分のお部屋を分かりやすくしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダはないが、建物の周囲には木製のフェンスがあり、その間を散歩できるようになっている。建物の西側にある広い芝生のスペースでは、夏になるとイスを置いて日光浴をしながら談笑されている。東側には花畑のスペースもある。</p>	<p>車イスの利用者でも、屋外で野菜作りできる空間を模索中である。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>毎日の生活を共にする中で利用者の意向を掴んでいると考える</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日ゆったりと過ごしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>お一人お一人のペースで暮らしておられます。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員の笑顔の対応に、ご利用者も笑顔で返してくれます。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望の場所には、グループ又は個人でお出かけします。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>死期を怖がられたり、「あー幸せ！」と交互におっしゃる方も居られますが、</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>各々その時々々のニーズを汲み取った支援をさせて頂いております。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>御家族の困っておられることは、出来る限り対応をさせて頂いております。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>訪問が重なることもあり、平均2日～3日に1度位です。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	会議が縁となり、近隣3グループホーム合同の企画を進めている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	先ず笑顔を作って、形から入って生き生きとなれるようになっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	満足していただけるよう、努力しております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	満足していただけるよう、努力しております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
これからも、普通の生活を継続して行きたいです。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム よいしょ春採 (2F)	評価実施年月日	平成20年1月31日～2月16日
評価実施構成員氏名	管理者 南部、石岡、石戸谷、伊藤、伊藤、池田、成瀬、村上		
記録者氏名	南部 敏子	記録年月日	平成20年2月16日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者がもう一つの家として、満足した生活を送って頂けるように常に「笑顔でサポート」を実践し、笑顔の絶えない楽しい我が家である様に取り組んでいる。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	必要情報の共有化を徹底して、理念の具現化を図ることを重要取組事項の一つとしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の方にはホームページや「よいしょ便り」の発行等の広報を通して、ご家族には利用者の生活状況等を来訪時に報告したり、お手紙やお写真の送付を通して「楽しい我が家」が理念であることの浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所、町内会の方と行き会った時には挨拶の徹底を計り、町内会の一員であることを理解して戴ける様取り組んでおり、日常的なお付き合いが出来るように努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームの行事(クリスマス会等)には地域の方をご招待し、地域の行事(盆踊り等)や保育園の行事には参加させて頂き、併せて地元の方々との交流に努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	「高齢者文化作品展」等の作品作りを通して、利用者全員が一丸となり、コミュニケーションと親睦を図ると共に、地域行事にも積極的に参加している。		清掃の日・花いっぱい運動等の環境美化運動に参加して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の外部評価での「要改善」点について、職員は共有認識のもと積極的に改善に取り組んだ。同時に再度の自己評価を行い問題点の掘り起こしを行い、緊急を有する事項等は速やかに改善している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>利用者の1日の生活の様子、心身状況を理解していただいた上で、緊急時の災害等における町内会との連携やホームの取組みについての評価・提案を載いている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>自治体主催のセミナーや各種勉強会には可能な限り参加し、併せて市の担当者との連携に努めている。定期的な打合せはないが、特に経営者との間で積極的なやり取りが良好に継続している。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度のセミナーには積極的に参加しており、今後事案が発生したときに混乱なく制度が活用出来るように考えている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止関連法及び身体拘束等についての研修には積極的に参加している。利用者・スタッフ相互の言動・行動に注意を払い、常に防止に努めている。又日常作業の中に虐待に当たることがないか、日々個々人が振り返り・反省することにより防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を行う際には入居者や家族に十分な説明を行い、契約後においても質問に応じている。退去時においても契約書にあるように、納得される退去先に移れるよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者とのコミュニケーションの中から意見・不満・苦情を読み取り、スタッフのカンファレンス(検討会)の中で精査・解決している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族の来訪時での報告は勿論、毎月請求書送付時に利用者の生活の様子を写したA4版の写真に担当スタッフの手紙を添付し、併せて領収書を添付した現金出納帳を同封している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置しているが、ご家族に対しては積極的にホーム側より聞き取りをしている。訪問時には相談室において要望・意見を伺い運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	都度聞き取り、又は面談・会議を通して出された意見・提案は運営に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	シフト勤務は血の通った温かいものと認識しており、勤務の変更は状況により柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職時には新規採用者を事前に配置する等、利用者に対するサービスの低下を招かないように配慮している。又スタッフの定期的な移動は、マンネリ防止の為にも必要なことと考え実施しているが、同様の考えで業務に支障がないよう慎重に進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修会等には積極的に参加し、他ホームの取組みを聞いたり、介護技術を身に付けスキルUPを図っている。それらは他の参考資料と同様、確実に他スタッフに回覧・伝達され職員を育てている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>GH連絡協議会を通して行われる親睦会・ホーム交換実習は積極的に参加し、交流を図っている。最近では釧路市東部南地域の3つのGHと打合せし、共同でのスキルUPを模索している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に管理者が職員と個別面談を行い、ストレス軽減に向けた話し合いが持たれている。現在職員の休憩室がなく、各自の車中で休憩をとっている状態なので、これについては経営者と打合せ中である。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>本人や他の職員から話を聞き職員個々の努力や実績、勤務状況を正しく把握し、向上心を持って楽しく働くことが出来るよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に何度か本人に会い、生活の様子とお話から、ご本人はこれからどうしたいのかを御家族からのお話も併せて構築し、同時にご本人との信頼関係をはかっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に何度か御家族に会い、困っていること、不安なこと、求めていること等を伺い、ご本人のケアに生かすと共に、ご家族との信頼関係をはかっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主に管理者が中心になって対応している。グループホームの利用に特化することなく、介護保険法の3施設又は他の地域密着型サービスの情報を提供したり、紹介するように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	お茶碗・お箸等のご本人が使用していた馴染みのあるものをご家族に用意していただいたり、入居時には他入居者様を紹介したり、職員も一人ひとり挨拶し、又歓迎会を開く等して徐々に馴染んでいただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、お料理の際味見をお願いし助言をいただいている。カスピ海ヨーグルト・甘酒・塩辛等の作り方を教わったり、職員が使用する事務用品の片付けを手伝っていただき、しまった場所を聞いたりする等お互い支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	遠方のご家族にも係わらず、病院受診をされる場合が多々あるが、あえてこの接点が大切だと考えお願している。同様に御家族の利用者様への訪問も大切に考え、利用料のお預かりも振込みに限定することなく、お持ち頂いた際にも利用者様の情報を伝え、一緒に支えていく関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月に一度、入居者様のホームでの暮らしぶり、お話しした言葉などを書いたお便りを、笑顔のお写真と共に送付し、ご家族には常に安心感を持っていただいている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	住んでおられた処やその周辺を一緒に見に行ったり、ご友人・御近所の方が来られた時は積極的に会って頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとりの性格・好み・手伝えることを把握し、職員が間に入ることで、自然と調理・買い物等を通じて協力・支えあうように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院されやむなく退去されたご利用者が、再度御家族の希望で入所になられたことがある等、退去時にも支援は欠かさずご家族とは良好な関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ホームに就職されたと思っている方には職員と一緒に電卓を叩き、お部屋での時間を大切にしたいと思う方はそのように支援し、料理をキッチン内で作りたい方には積極的にやっていただく等、自己実現のためにも思いや意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、又その後もご本人、御家族、関係者の方からご利用者の生活歴を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	刻々と変化する一日の過ごし方・心身状態を把握する為、書式による生活記録(バイタル等)や口頭での申し送りにより、総合的に捉えようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員だけが「介護計画」を作成するのではなく、ご利用者の担当スタッフ初め管理者、他スタッフ、看護師が情報を持ち合い長期・短期の計画をチームで作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。又入院など心身状況・環境に大きな変化があった場合は、都度スタッフ会、ご家族との話し合いを持ち、適切な計画を作り直している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ノートと口頭による申し送りが引き継ぎ時にあり、情報の共有に努めているが、それとは別に24時間の「生活記録」があり、バイタル・摂食量・排せつ・睡眠・入浴等や利用者の言葉が書き込まれ、同様に共有する大切な情報であり、「生活支援計画」に生かされる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族が行けなくなった病院受診では、ホームの職員がホームの車を使いお連れしている。ご利用の方が不幸にも亡くなられた場合、同じフロアのご利用者は喪服に着替え、ホームの車を使い通夜に出掛けたり、楽しみとして近隣の温泉に泊まったり、職員・資源を柔軟に使って支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署との協力で避難訓練を行ったり、民生委員の方とホーム利用者の緊急避難について話を持っている。市のお祭りや町内の夏祭りに参加したり、作品展に出展している。他にも保育園の子供たちが訪ねてきたり、招かれふれあいを持つ等地域資源と協力しながら支援を進めている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近くに開設した障害者の施設の協力でカラオケをしたり、お風呂に入ったりしている。ボランティアの方に理美容に来ていただいたり、入浴のお手伝いをいただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の委員というだけでなく、最近では入居希望者の橋渡しになってくれることが多く、こちらからも介護保険の取り扱いで何う場合もある。又成年後見制度等の各種セミナーの御案内・他社会資源の紹介をいただくなどの連携がなされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	異変があった場合はホームの看護職員と相談の上、医療連携している医療機関で診断していただいているが、ご利用者が入所前から利用していたかかりつけ医がいる場合は、その医療機関を受診する。最近は歯科だけではなく、内科医の先生にも往診いただき、健康管理に努めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	脳神経外科は勿論、認知症に詳しい精神神経科の受診も多い。医師とは積極的な情報交換が行われ、それにより薬の種類・量が決められてゆく。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご利用者の日常の生活状況を良く知るホームの看護職員は、緊急時又は定期の受診において、地域の医療機関に適切な情報を提供し、利用者の健康を陰で支えている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご利用者入院後も訪問し、見知った顔を出すことによって安心していただくと同時に、病状の変化を伺い、状況により御家族と共に医師の意見を伺う。医療機関と連携して必要に応じて日常の情報を提供し、早期の回復、早期の退院を計っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療連携体制をとっているグループホームとして、入居時から「重度化した場合の同意書」を交わしている。未だターミナルケアの経験はないが、「ターミナルケアマニュアル」は作成し職員には回覧、周知徹底している。御本人・御家族の希望で看取りの対象者が出た場合には早急にスタッフ会を招集し、具体的な検討に入る。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	往診して下さる医師の体制は出来ている。訪問看護事業者との打合せも終了している。ターミナルケア実現の為に必要な、気付きを中心としたチームケアは日々構築されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境の大きな変化がある場合は、御家族に日常生活を伝える等して、出来る限り今まで通りのリズムで生活できるよう支援する。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者さんには常に尊敬の念を持って、言葉かけや対応をしており、生活記録においてもその様に取り扱っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>毎回行われている入浴・排せつ等も、説明の上、御本人の気持ちを確認して行われる。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>グループホームは利用者の家なので、入浴も夜に入りたい方にはその様に支援し、午前中お休みしたい方にはその様に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>日々の服装は入居者さんの希望を聞いて支援している。理美容は現在御本人の望まれる店はないが、ボランティアの方に2ヶ月に1回来ていただいております、御本人の納得した髪型にして頂いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者さんの食したいものを事前にお聞きして、一緒に下ごしらえに入るようにしている。後片付けは利用者さんが中心になって行われている。又、日によって外食、出前、パン食にする等飽きの来ない工夫をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒等はかかりつけの医師と打合せする場合があるが、嗜好品は日常的に楽しめるように支援している。おやつとは別な嗜好品は個人の居室で召し上がっていただく等配慮するようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの方は現在いらっしゃらない。排泄つの間隔を把握し、声かけ・誘導を行っている。自分で出来る部分は安易に職員が手を出さず、見守りの中ですべて頂いている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や回数・時間帯が決められてはいない。又支援スタッフが固定されてもいない。入浴は午前中から準備され、ご利用者が入浴希望を言いやすい自由な雰囲気を作るようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、利用者が床に付きたくなる各自のプロセスを支援している。食事後のリラックス・着替え・歯磨き・テレビの音量・ホールとお部屋の行き来等だが、ストレス・日中活動量・入浴・お腹の調子・排便等も影響する為それらの情報も共有され、支援される。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物・食事準備・後片付け等、興味があることは積極的に係わっていただいている。新聞を読んだり、漫談のCDを聴いたり大声で笑っていただいている。塗り絵・ちぎり絵・編み物等共同で作ったり、おやつ時間(3時)にはいつも皆で歌を歌っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	御本人がお金を管理する能力、又はお金を一部所持したい方には管理していただき、スタッフと一緒に本・ハガキ・切手・おやつ・化粧品・お酒等を買に行き。管理が難しい場合はホームで管理し、受診料・肌着・リハビリパンツ等を購入し、後日預かり金の出納帳を御家族に送付するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出を容易にするために、車は福祉車両を用意している。計画を立て外出することもあれば、当日ふらっと海を見に行ったり、公園へ行ってアイスを食べてきたり、臨機応変に外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフと共に夏祭りの会場で屋台を回ったり、回転寿司で食事をしたり、ボーリング場に行ってみたり、温泉へ一泊旅行に出掛けたりしている。ホテル等で記念行事をしたり、別会場を借りてクリスマス会をする場合は御家族の方にも出席いただいている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご利用者が御家族又は御友人にホームから電話をしたり、電話を受けて話すことは自由で、それを支援している。手紙や年賀状もスタッフの協力により、作成・送付している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	1来訪されたお客様と、居室やリビング等でゆっくりと談笑して頂ける雰囲気が出ています。2夏のバーベキュー会・冬のクリスマス会では、御家族や地域の方達にも声を掛け、楽しいひと時を共感していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	以前、ご利用者の御家族から介護衣を使うよう提供していただいたことがあるが、丁寧にお断り申し上げた。身体拘束だけではなく、スピーチロック・ドラッグ拘束等、利用者を施設側の都合で支配・管理することは厳に戒めなければならないことを、理念と共に毎日確認している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室・玄関・非常口は日中鍵は掛けず、利用者は自由に屋外を行き来できる。その際は安全確認を常にしながら、さりげなく見守りを行っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員1名は必ずフロアーに居り、居室で休まれている方には時々声かけするようにして、職員全員が所在や安全を把握できるようにしている。夜間は各利用者を巡回し、安全確認を行っている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>キッチン等に興味があり、徘徊がある場合は包丁を手の届かないところに保管する等している。又利用者にとって注意の必要なものは職員が把握し、場合によって保管させていただき、事故がないよう安全に気をつけている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>身体状況面から、誤嚥等による窒息を防ぐ為に刻み食として、少量ずつ召し上がっていただく等、職員全員が情報を共有し、統一した介護計画とケアを行い、結果事故の防止を図っている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急マニュアル・事故発生マニュアルは作成され、定期的な訓練も行われている。しかし、回数が少ないと思う。</p>		<p>具体的な訓練の数を増やし、急変時には落ち着いて対応できるようにしたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練は1年に2回行っており、運営推進会議等の席上でも、地域との災害時の連携について話し合われている。</p>		<p>夜間時を想定しての避難訓練を行いたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>抑制感のない暮らしを大切にすることはグループホームの特徴であり、必然的に見守り・気付きを最大限に発揮して、安全を確保することを御家族にも説明している。「生活支援計画」においてもその考えが基になり、特徴的な対応の仕方(徘徊される方に対して、それを止めるのではなく、その都度支援する等)に理解していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の体調等に变化があった場合、他の職員へも口頭・ノート・生活記録等で速やかに申し送りされると共に、看護職員・管理者と相談の上初期の対応が決定される。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は利用者一人ひとりの薬ファイルを作り、用法・用量を把握できるようにしている。誤薬がないようその都度確認して、飲み終えるまで見守るようにしている。薬が変わった場合はその効能をチェックし、その後の様子に変化がないか申し送りしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取量を把握したり、食物繊維等バランスの取れた食事を心がけるようにしている。テレビ体操をしたり、生活リハビリの考えで身体を動かして頂く様にしている。		利用者全員が身体を動かす機会を増やしていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者の自主的な口腔ケアの他に、食後は毎回声かけて口腔ケアをしていただくようにしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりの身体状況に合わせて、トロミ粉を使ったり、きざみ食にしたり、TPOや嗜好に合わせた水分摂取を心がけている。食べる量も、比べて分らない範囲で、一人ひとりに合った量にしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めがなされており、利用者・職員・来客の手洗い、うがいを周知徹底している。職員のインフルエンザ予防接種、健康診断も全員がなされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所のシンク内・まな板・布巾等は、毎日夜勤者が殺菌消毒している。食材は毎日新鮮なものを購入し、古いものが残らないように日付を確認しながら使っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関の前は広く、通りまで見渡すことが出来る。夏場は近隣の子供たちが遊びに来て利用者とも交流している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>春採湖に面している環境の為、騒音・ネオン光等はない。玄関には四季を感じる置物が都度展示され、廊下・リビングは勿論、トイレの中にも絵画を飾り、御自分の家のような、くつろげる雰囲気を作っています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室以外では特に一人になれるスペースはありませんが、利用者がお一人でソファやテーブルに座られることはあり、その場の気持ちを押し量って対応しています。又利用者のお部屋に数人の利用者さんが集まって談笑されることもあります。</p>		<p>利用者全員が楽しめるスペース空間があったらよいと思う</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際に御家族とよく話し合い、御本人が落ち着ける普段使い慣れた品(仏壇・御家族の写真・表彰状等)を持ち込んでいただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレは常に換気扇が回っていて、便座にも臭気が残らないように工夫されている。リビングには空気清浄機、加湿器、除湿機が設置され、季節又は日によって適切な空調管理がなされている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーとなっており、身障者トイレ、エレベーター、車イス対応洗面所等、車イスの利用者も出来るだけ自立した生活が送れるように考えられている。又ホーム内は至る所に手すりを設置し、杖歩行の方や自立の方も安心して生活していただくよう工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレ、風呂等にはサインボードがあるが、更に分かりやすくする為に大きな字で表示し、混乱がないように支援している。又利用者の部屋の入り口には飾り棚のスペースがあり、それぞれのお名前や以前使用していた表札を設置して、御自分のお部屋を分かりやすくしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダはないが、建物の周囲には木製のフェンスがあり、その間を散歩できるようになっている。建物の西側にある広い芝生のスペースでは、夏になるとイスを置いて日光浴をしながら談笑されている。東側には花畑のスペースもある。</p>	<p>車イスの利用者でも、屋外で野菜作りできる空間を模索中である。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>毎日の生活を共にする中で利用者の意向を掴んでいると考える</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日ゆったりと過ごしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>お一人お一人のペースで暮らしておられます。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>職員の笑顔の対応に、ご利用者も笑顔で返してくれます。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>希望の場所には、グループ又は個人でお出かけします。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>死期を怖がられたり、「あー幸せ！」と交互におっしゃる方も居られますが、</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>各々その時々々のニーズを汲み取った支援をさせて頂いております。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>御家族の困っておられることは、出来る限り対応をさせて頂いております。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>訪問が重なることもあり、平均2日～3日に1度位です。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	会議が縁となり、近隣3グループホーム合同の企画を進めている。
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない	先ず笑顔を作って、形から入って生き生きとなれるようになっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない	満足していただけるよう、努力しております。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない	満足していただけるよう、努力しております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
これからも、普通の生活を継続して行きたいです。